

参加者募集! いずれも年1回の募集です。
お見逃しなく。

第24回 「静岡の名手たち」オーディション

静岡音楽館AOIでは、新進音楽家の発掘と育成のためにオーディションを開催します。合格者は、2019年9月14日(土)「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサートへの出演が決定しているほか、今後(公財)静岡市文化振興財団が主催するコンサートへの出演などの機会に恵まれます。

日程及び部門/
2019年4月28日(日)
打楽器部門・声楽部門(順不同)
4月29日(月・祝)
弦楽器部門・アンサンブル部門(順不同)

審査員/
野平一郎(審査員長)、大倉由紀枝、佐久間由美子、
福田進一、松倉利之、松原勝也、望月哲也 ※50音順
募集定数/150組
参 加 料/1組¥3,500
申込締切/2019年3月6日(水)必着

第21期 「子どものための音楽ひろば」

1年を通じて耳や目・手・足・頭…、身体の色んな部分を使って、音楽を楽しんでいきます。
その道を極めたプロの芸術家が、音楽の楽しみを五感を使って伝授します!! 自分の好きなこと、得意なことを発見してください。1年間、仲間といっしょにいるんなことを体験してみませんか?

場 所/静岡音楽館AOI(7階講堂)ほか
定 員/50名*応募多数の場合は抽選
対 象/新小学校4年生～中学校3年生
受 講 料/¥12,000(税込)*別途実費をご負担いただく場合があります。
応募締切/2019年3月10日(日)必着
日 程/全24回 概ね土曜日開催
開講式 2019年4月27日(土)
時 間/13:30～16:45(1コマ90分程度)
*通常1回2コマ。

募集要項をご希望の方

静岡音楽館AOIのホームページよりダウンロードしていただくか、
静岡中央郵便局併設ビル内7階
静岡音楽館AOI受付カウンターへどうぞ。

*価格は税込です。
*都合により内容を変更する場合があります。

ご家族、ご友人にぜひおすすめください! 静岡音楽館倶楽部

あなたもAOIで、感動のひとときを味わってみませんか

静岡音楽館倶楽部とは?

AOIで繰り広げられる多彩なプログラムをより身近に、より手軽にお楽しみいただけるのが“静岡音楽館倶楽部”です。年会費(4月1日～3月31日)2,000円。1月から3月までは、下記のとおり、さらにお得なキャンペーンを実施します。お知り合いの方に、ぜひご紹介ください。

こんなにおトクな特典が!

- 1 AOI主催コンサートでご利用いただける1,000円割引券2枚プレゼント
- 2 チケット10%OFF 1公演2枚まで10%OFFでお求めいただけます!
- 3 チケット先行発売 一般発売に先駆け、いち早くチケットをお求めいただけます!
- 4 AOI公演情報無料郵送サービス
- 5 チケット無料郵送サービス
- 6 ピアニストのためのアンサンブル講座「修了記念コンサート」へ無料ご招待(年1回)
- 7 リザーブシートサービス シリーズ全公演のチケットをお求めいただくと、いつもお気に入りの席で鑑賞できます!
- 8 AOI以外でも特典が…!

静岡市美術館・MOA美術館入館料割引
静岡市美術館・静岡市立芹沢銈介美術館の企画展チケットを抽選でプレゼント
ハケ岳高原音楽堂(特別割引)

*これらの特典は静岡音楽館AOIが主催する公演に限ります。
*割引・先行発売は静岡音楽館AOIでのみお取り扱いします。

ご入会方法

資料請求 ◎お問合せ 静岡音楽館AOI TEL.054-251-2200
◎AOIホームページ「お問合せフォーム」より、その旨をお知らせください。

今すぐ申し込みたい! ご入会には、所定の入会申込用紙へのご記入が必要です。
①初年度会費(2,000円)
②会費引落し口座番号のわかるもの
③金融機関届出印
の3点をご持参の上、ご来館ください。



2019年度 静岡音楽館倶楽部 ご入会キャンペーン

2019年1月5日(土)～2019年3月31日(日)
※1月5日より受付を開始いたします。

特典1 会員期間が最大
3カ月プラスに!!

通常 2,000円 + 2019 3/31 2019 4/1 2,000円 = 4,000円 2020 3/31
ご入会日 期間中 期間中
ご入会日から3月31日までの期間で2,000円がかかります。 4月1日～3月31日までの期間で、次年度の年会費2,000円がかかります。

キャンペーン中 2,000円 2020 3/31
ご入会日
キャンペーン中は、ご入会日から、翌年の3月31日までの期間で2,000円となります。

特典2

第13期
「ピアニストのためのアンサンブル講座」
修了記念コンサート(2019年1月14日開催)
へ無料ご招待
(※2019年1月14日までにご入会した方が対象)

特典3

新規ご入会者先着40名様に
静岡市美術館にて開催される
「起点としての80年代」
(2019年1月5日～2019年3月24日)の
招待券をプレゼント

特典4

ノヴェルティ・グッズプレゼント
(今回、初めて入会する方のみ限定)
特製ノヴェルティ・グッズ(メモ帳とクリアファイル)
をプレゼント。

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、平成30年度をもって退会をご希望のかたは、平成31年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2018年11月末現在)50名順

- (株)アイテレテック
- (株)タミヤ
- (株)SBSプロモーション
- (株)戸田書店
- (株)ジェイアール東海ホテルズ
- (有)丸吉事務機
- (株)メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2018-19

主 催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静岡信用金庫

協 賛 アイ不動産 HD studio FORUM
ホテル センチュリー 静岡 ANSHINDO

助 成 文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会



託児サービス 要事前予約(1週間前まで)・託児料:1人1,000円
すわん Tel./Fax.054-255-5377
(火～金 10:00～15:00)
e-mail: swan@xqj.biglobe.ne.jp
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開催、翌平日休館)9:00～21:30開館

〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お 問 合 せ

054-251-2200

検索



メッセージ ソヌ・イエゴン (ピアノ) ソヌ・イエゴン ピアノ・リサイタル

インタビュー 今井信子 (ヴィオラ) 今井信子 (ヴィオラ) & 伊藤恵 (ピアノ) デュオ・リサイタル

子どものためのコンサート 東京混声合唱団 東混ゾリステン 声楽八重唱 メッセージ

コンサートレポート ジャン＝ギアン・ケラス(チェロ)&フレンズ トラキア・プロジェクト

AOIのオープン・デイ2018 報告

第18回「静岡音楽館AOIコンサート企画募集」事業

われらがイエスの肢体

～若きバツハが400キロ歩き追い求めた、ブクステフーデ最大の受難曲～

コンサートシリーズ2019-20のご案内

AOI 通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
DECEMBER 2018 No.92

冬号



メッセージ ソヌ・イエゴン (ピアノ)



1月にAOIに初登場するピアニストの
ソヌ・イエゴンさんよりメッセージが届きました。

2019年1月の日本のリサイタルツアーでは、2017年のヴァン・クライバーン・コンクールで演奏した作品からの選曲を演奏する予定です。コンクール以来演奏してきている作品です。というも、日本に戻ってくるのは久しぶりなので、より衝撃的な選曲をしなかったということと、コンクールのオンライン配信を通じて私の演奏を聴いてくださっていた方へ、今度は生演奏をお届けしたいと思ったからです。各地で少しずつ異なるプログラムを演奏するので、できたらぜひ全てのコンサートへ来ていただきたいです!!

R.シュトラウス：《ばらの騎士》より〈愛の二重奏〉(P.グレンジャー編)は何度も演奏してきましたし、演奏する度にこの作品に魅了されています。美しい波と星が散りばめられたそんな素晴らしい魅惑的なメロディーで、皆さんをリサイタルプログラムの旅へ誘うのに完璧なオープニング曲です。

既にご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、私はかなりのシューベルト好きなんです。この即興曲を演奏する時はいつでも、聴衆のために演奏し感情を共有しているとはいえ、演奏者、音楽家として私自身を満たしてくれるのです。彼の音楽はまるでねぎらいのように魂を落ち着かせてくれるからです。

前回日本へ行った時からずいぶん長い時間が経ったと思います。たくさんの友人達との再会など、本当に日本へ戻るのが楽しみです。皆さんにご多幸を、そして、2019年1月のリサイタルを楽しみにしています。

ソヌ・イエゴン ピアノ・リサイタル

2019

1/19 土 22歳以下
¥1,000

18:00 開演 (17:30 開場)

全指定 ¥4,000 (静岡音楽館倶楽部会員¥3,600)

[Pコード：344-448]

曲 目

R.シュトラウス：楽劇《ばらの騎士》より
〈最後の愛の二重唱によるランブル〉
(P.グレンジャー 編)

F.シューベルト：4つの即興曲 op.142, D.935

J.ブラームス：ピアノ・ソナタ第2番 変ヘ短調 op.2

F.ショパン：ポロネーズ第5番 変ヘ短調 op.44

©Ralph LauerThe Cliburn

インタビュー 今井信子 (ヴィオラ)



1月に伊藤恵さんとのデュオでAOIに登場する
ヴィオラの今井信子さんにお話をうかがいました。

ヴィオラを始められたのは何歳のときでしょうか。また始めることになったきっかけも教えてください。

多くのヴィオラ奏者同様、私もまず最初にヴァイオリンを習いました。初めてヴィオラを弾いたのは高校に入学した15歳のとき。当時の桐朋学園ではオーケストラに入るとヴァイオリンの生徒はヴィオラも弾いていたのです。でもヴィオラに転向したいと思ったのは桐朋学園大学に入ってから。大学4年生の時に訪れたタングルウッド音楽祭で当時のボストン交響楽団の首席奏者ジョセフ・ド・パスクワールの演奏に衝撃を受け、ヴィオリストになる事を決意しました。

ヴァイオリンではなくヴィオラを選択した理由を教えてください。

高校生の頃からヴィオラを演奏すると何か自由な、解放されたような気分になったのを今でも覚えています。決定的だったのは前述のバスクワール氏の演奏で、彼のような魅力的で雄弁な音色を出せるのがヴィオラという楽器であるならば、私は絶対にヴィオリストになりたいと思いました。

ヴィオラのどんなところに魅力を感じていらっしゃいますか。

深く官能的ともいえる音色、そして表現力を求められる楽器だからでしょうか。「大人の楽器」と言われる所以です。

今井さんが始められた「ヴィオラスペース」は20年以上にわたって続いていますね。長く続けていくのは非常に難しいことだと思いますが、この活動への思いなど教えてください。

ヴィオラの可能性を追求したい、ヴィオラの魅力を少しでも多くの方に知って頂きたいという思いでヴィオラスペースを続けてきました。ヴィオラのための新作委嘱、ロンドンのウィグモア・ホールやニューヨーク・コロンビア大学のミラーシアターと提携してのインターナショナル・ヒンデミット・フェスティバル、東京国際ヴィオラコンクールなどこれまで様々な挑戦を行ってきましたが、続けられたのはひとえにひとりの力のお陰だと思っています。

ヴィオラ振興のためにと協力を惜しまない共演者たち、支援して下さるスポンサー、そして心強い制作スタッフと誰が欠けてもここまで続ける事は出来ませんでした。

今はフランス人ヴィオリストのアントワン・タメスティが中心となってプログラミングを行っています。これからのヴィオラ界を担う彼を中心に今後も様々な挑戦を続けてゆきたいと思っています。

今回のプログラムについて教えてください。

シューベルトのソナチネは小品ながら様々な表情の詰まった魅力的な作品です。ヴァイオリンの為に書かれた作品ですが、今回はヴィオラで演奏します。

シューマンの《詩人の恋》は、伊藤恵さんといつかどこかで演奏したいと憧れにも近い思いを抱いていた作品です。今回静岡で演奏する機会を頂きとても嬉しく思っています。もともとは声楽とピアノのための作品ですが、人間の声に一番近いといわれるヴィオラだからこそ出来る表現があるのではと思っています。

〈私を泣かせて下さい〉はヘンデルのオペラ《リナルド》の中に出てくる有名なアリア。細川俊夫さんが私の為に編曲して下さった宝物のような作品です。

最後に演奏するフランクのソナタは音楽人生を通じてこれまで何度も何度も繰り返し演奏してきた作品です。もともとはヴァイオリンの為に書かれた作品ですが、今ではヴィオラ、チェロ、コントラバスなど様々な楽器で演奏されています。ヴィオラならではの深い響きでこの作品の新たな魅力を感じて頂けますと幸いです。

共演者の伊藤恵さんについてご紹介ください。

伊藤恵さんとはこれまで何度もご一緒にきました。伊藤さんとは共演する度にお互い様々なアイデアを交換し、常に新鮮な気持ちで作品に向き合う事が出来ます。また演奏する度に、感性豊かな彼女のピアノから様々なインスピレーションを得ています。

静岡では二人で長年実現したいと話していた《詩人の恋》に挑戦するのですが、今からその時を心待ちにしています。

お休みの日は何をなさっていますか。どんなことにご興味をお持ちでしょうか。

お陰様で色々なところからお声掛け頂いて、休みというほどの休みがないまま毎日過ごしていますが、少しでも時間が出来ると足が向いてしまうのはやはり家族のいるところ。彼らと過ごす時間は、私にとって何ものにも代えがたい特別なものです。

コンサートに向けて、お客様にメッセージをお願いします。

久しぶりに訪れる静岡音楽館AOIでヴィオラを鳴らすのを楽しみにしています。分かりやすいプログラムであればあるほど、既成の音楽でなく、自分の言葉で語ることを要求されます。今回このような機会を頂き、静岡のお客様の前で演奏させて頂けるのはとても尊い事だと思っています。

今井信子 (ヴィオラ)
& 伊藤恵 (ピアノ)
デュオ・リサイタル
1/25 金 22歳以下
¥1,000
19:00 開演 (18:30 開場)
全指定¥4,000 [Pコード：344-450]
(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

曲 目

F.シューベルト：ソナチネ ニ長調 op.137-1, D.384 (ヴィオラ版) ほか

R.シューマン：詩人の恋 op.48

G.F.ヘンデル：私を泣かせてください (歌劇《リナルド》HWV7 より) (細川俊夫 編)

C.フランク：ヴィオラ・ソナタ イ長調 M.8

学 芸 員 雑 記

伊藤恵が奏でるシューマン。

静岡音楽館AOI 学芸員 小林旬

日本を代表するピアニストのひとり、伊藤恵さんが静岡音楽館AOIのコンサートシリーズに出演したのは1998年のことだった。そのリサイタルに際してのインタビュー (AOI通信 第8号) で彼女は「シューマンは私にとって恋人」と言っていたが、これまで彼女がとりわけシューマンの作品の演奏をライフワークとしてきたことはよく知られていて、「シューマニアナ」というタイトルのCD13枚をリリース、この作曲家のピアノ作品全曲をレコーディングしている。98年のリサイタルでは、ホールからのリクエストに応じて、シューマンの《子どもの情景》op.15で始まり、幻想曲ハ長調 op.17で終わるプログラムを演奏。円熟の音楽性とその人がらが、シューマンの世界を、優しく、穏やかに、ふわりと飛翔させた。

それから20年。そんな伊藤恵さんの奏でるシューマンが、また静岡音楽館AOIのステージに帰ってくる。こんどは珠玉の歌曲集《詩人の恋》op.48を、日本

のヴィオラ奏者の至宝、今井信子さんとのデュオで。最近ではテレビやラジオ、新聞、雑誌などでも伊藤恵さんをみる機会もしばしばで親近感があるけれど、やはり彼女のピアノでシューマンを聴くことができるのは贅沢なひとときになるはずだ。ハイネの詩に込められた春の喜び、愛の喜び、そして恋に破れた痛切と悲嘆、それらを言葉なく聴衆に訴えかけようとするとき、ピアノはより雄弁にその抒情を語るだろう。



1998年6月11日 静岡音楽館AOI

2019年2月2日「子どものためのコンサート
東混バリステン」公演にご出演いただく
東混バリステン コンサートマスターの松崎ささら氏より、
メッセージをいただきました。



“To be, or not to be...”シェークスピア作『ハムレット』3幕1場の台詞。

ハムレットは悩める人であった。するか、しないか... どちらにしても、選ぶという行為は能動的だ。私はというと、歌、その仲間、作品と出会う度に嬉しい悩みを得て、舞台上で気貴く生きる最良の道を探ってきた。それはまさにハムレットのように。

さて、来る2019年2月2日の東混バリステン公演は、すでに多くの導きがある。ホールの方々の積極的アプローチ、それに関わるスタッフの皆さんのサポート。その確かであたたかな支えの中で、私達は沢山の音楽を子ども達と分かち合える。

ハムレット5幕2場では、“let be”という台詞に変化していく。悩むのをやめ、運命を受け入れるのだ。公演を迎える頃の私は、多くの感謝を携えてその日を待ち望んでいるだろう。そしてその時には、新たな“to be”の旅への準備を始めているかもしれない。

子どものためのコンサート
東混声合唱団

東混バリステン



2019
2/2土

15:00 開演 (14:30 開場)
全指定 ¥2,500 [Pコード：344-451]
(静岡音楽館倶楽部会員¥2,250)
親子券 ¥3,000

出演 東混バリステン (声楽八重唱)
松崎ささら*、稲村麻衣子 (ソプラノ)
小林祐美、筒井直子 (アルト)
尾崎修、富本泰成 (テノール)
熊谷隆彦、松井永太郎 (バス)
北野悠美 (ピアノ)

曲目
オープニング♪
越前信義：おもちゃのチャチャチャ (原研昭知 詞 (吉岡治 編)、藤野弘典 編)
History of chorus (合唱の歴史)♪
グレゴリオ聖歌 アヴェ・マリア (中世)
Q.d.ラッソ：やまびこ (ルネサンス)
J.S.バッハ：イエスは我が喜び (注よ人の涙みの喜びよ) BWV147-10 (バロック)
L.v.ベートーヴェン：歓喜の歌 (交響曲第9番 (合唱付) 二重語 op.125 より) (古典派)
R.シューマン：流浪の民 op.29-3 (花童小三郎 訳詞) (ロマン派)
F.ショパン：幻想即興曲 op.66 (ロマン派)
A.コープランド：町から猫を連れてきた (現代音楽)
間宮芳生：合唱のためのコンポジション 第1番より 第4曲 (現代曲)
会場のみなさん♪
雨のボディー・ハーカッション (～体を楽器にして「雨」を表現～)
エンジョイ・コーラス♪
中山晋平：雨ふり (北原白秋 詞、上田寛樹 編)
瀧廉太郎：箱根八里 (黒田俊 詞、林克 編)
中山晋平：シヤボン玉 (中村錦悟 詞、林克 編)
黒須克彦：夢をかなえてドラえもん (黒須克彦 詞、北川律 編)
桃井：うつくしいのはけつようひのこと (山田俊太郎 詞、山田俊太郎 訳詞)
スペイン民謡 幸せなら手をたたこう (山村利人 訳詞、藤野弘典 編)

静岡音楽館AOI コンサート企画募集事業

2月16日に第18回静岡音楽館AOIコンサート企画募集事業「われらがイエスの肢体～若きバッハが400キロ歩き追ひ求めた、ブクステフーデ最大の受難曲～」でAOIに登場する丹沢広樹さんにお話をうかがいました。

■丹沢さんはバロックヴァイオリン奏者ですが、バロックヴァイオリンをはじめたきっかけを教えてください。

全ての楽器には進化の過程が存在しますが、現代のヴァイオリンとバロックヴァイオリンの差こそが、時代や楽曲と共に変化を遂げた形を表しており、私にとっても最大の魅力でした。若い頃に勉強したバッハの無伴奏ソナタをバロックヴァイオリンで弾いた時の難しさこそが、バッハやそれ以前の音楽に近づく第一歩でした。金属弦で容易だったバッハの和音がガット弦では全く上手に鳴らせない、今考えると当然です。金属と羊の腸では剛性も発音速度も全く違います。バロックヴァイオリンを触り始めて20年になりますが、ようやく現代ヴァイオリンと遜色なく弾きこなせる様に、言い換えれば作曲家や古楽器と喧嘩をせずに音楽に向かい合える様になって参りました。

■今回の公演について、なぜこの公演を実施したいと思いましたか。

「AOI」という国内トップレベルのホールの存在と、その会場のスケール感に見合う名曲を地元静岡の皆様にお届けしたい、この一心で応募しました。

今回の公演は四身一体となる事を願って構想しています。

最初に楽曲の核となる歌手ですが、これからの県内の音楽シーンを強力にリードしてゆくであろう静岡の地に根を下ろした5人の歌い手です。

次に、歌手と共に受難の7曲を演奏するのは国内屈指のバロック奏者たちですが、全員が楽器をまるで歌うかの様な弾き方をするのをお楽しみ頂けると思います。当然ながらどの楽器も極力当時のスタイルに基づいたオリジナル楽器になります。

3番目は歌手と古楽奏者に加え、楽曲の生命線とも言えるホール内の音響です。作曲家ブクステフーデが務めたリュウベックの大聖堂は世界最大級のパイプオルガンが設置されておりますが、典型的な縦長で吹き抜ける荘厳な音響こそがこの《われらがイエスの肢体》に欠かせない響きとなります。AOIは中部地方においてその条件を満たしている貴重なホールといえます。

そして最後に、訪れて頂く市民の皆様です。バルト海屈指の都市、リュウベックの市民たちは未だに大聖堂を紹介する時には、かの大バッハが400km歩き求め訪れたブクステフーデのエピソードを語り、その巨大なパイプオルガンは今日も音楽を紡いでおります。駿河湾屈指の静岡の街にもそんな文化拠点が御座いますので、是非ともお運び頂き共にブクステフーデの知られざる名曲をお楽しみ頂きたいと思います。

■聴きどころなど詳しく教えてください。

ブクステフーデの1つの特徴として、あらゆる楽曲にヴィオラ・ダ・ガンバを重用した稀有な作曲家である事が挙げられます。ヴィオラ・ダ・ガンバはバロック時代を以って絶滅

した重要な弦楽器なのですが、当代随一のオルガニストであったブクステフーデ自身の肖像画はガンバを弾いているものが残されております。今回の《われらがイエスの肢体》の6曲目の〈心について〉はガンバ・コンソート(5台のガンバ)で伴奏されます。

また宗教曲として頻繁に演奏されるバッハのマタイ受難曲等はキリスト教の信仰をお持ちの方が聴いてようやく意味の伝わる楽曲かと思いますが、今回の《われらがイエスの肢体》はイエスの体がお受けになられた傷の1つずつを取り上げて受難を歌う楽曲ですので、広くキリスト教の宗教観をお持ちでなくても気軽に聴き頂けると思います。

■公演に向けてお客様へメッセージをお願いします。

この度は教会音楽を皆様にお届けする上で、出来得る限りのリアリティを追求してお届けして参ります。

開演直後はAOIが誇るオルガンの独奏にて大聖堂を訪れて頂いた趣でお迎えし、プログラム中盤にはトリオ形式のソナタを間奏曲としてお送りします。ソナタとはイタリア語の「楽器を奏する」という動詞から生まれた言葉で、礼拝の途中に演奏される歌によるミサ曲に対する器楽曲という意味からソナタと呼ばれる様になりました。オルガンソロやソナタの演奏もミサの一連の流れとしてお送り致します。

最後に、本公演ではNHKの往年の人気番組「朝のバロック」の現在の解説ナレーターでお馴染みの音楽学者の今谷和徳氏が楽曲解説に加えて、現代解釈文と古典的対訳を執筆くださいますので、当日はこちらも合わせてバロック中期の情感をお楽しみ頂ければ幸いです。

われらがイエスの肢体

～若きバッハが400キロ歩き追ひ求めた、ブクステフーデ最大の受難曲～

2019 2/16[土] 18:00 開演 (17:30 開場)

全自由¥2,500 [Pコード：346-836]
(静岡音楽館倶楽部会員¥2,250、22歳以下¥1,000)
※未就学児はご入場いただけません。※託児サービス有。

出演 山田祐規子、川畑璃紗 (ソプラノ)、
佐藤典子 (アルト)、
永坂邦彦 (テノール)、鷺見誠一 (バス)、
丹沢広樹、天野寿彦 (バロック・ヴァイオリン)、
西谷尚己 (ヴィオラ・ダ・ガンバ)、
角谷朋紀 (ヴィオローネ)、杉本周介 (オルガン)、
金子浩 (リュート)、ガンバ・コンソート (川畑みどり、田中伸代、清野美佳、梶山雅美)

演目 D.ブクステフーデ：受難曲《われらがイエスの肢体》BuxWV75
ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバ、
通奏低音のためのソナタ 短調 BuxWV272



CONCERT REPORT

〈ジャン＝ギアン・ケラス(チェロ)&フレンズ
トラキア・プロジェクト〉を聴いて

池田逸子 (音楽評論家)

この公演の一週間ほど前に、〈カニサレス・フラメンコ・クインテット×福田進一〉公演でAOIが「サクロモンテ」(グラナダのヒターノ居住地区)のタブラオになったと感激したばかりだが、その同じホールが今度はバルカン半島のトラキア地方と化して、時空をこえた想像力の飛翔をうながして止まない素敵な音楽体験をさせてくれた。

ブルガリア、ギリシャ、トルコの各一部を含むトラキア地方は、ヨーロッパとアジアにまたがる多民族(多文化)混淆・混合地帯で、民族音楽の宝庫だ。ロマも多く住んでいるので、ロマ音楽とも浅からぬ関係(相互関係)にある。

西洋楽器のチェロを奏するケラス、ギリシャの擦弦楽器リラを奏するシノプロス、ベルシャの打楽器ザルブ(トンバク)とダフを奏するシェミラーニ兄弟による〈トラキア・プロジェクト〉の注目すべき点は、トラキア伝承音楽の再創造にとどまるのではなく、トラキアの音楽に象徴される混合文化を媒介(突破口)としたヨーロッパとアジアの新たな架橋に挑んでいることだろう。プログラムの最後に買かれたトラキア伝承の2曲(四重奏)以外のすべて(チェロ独奏曲、即興演奏を含む二重奏曲、三重奏曲、四重奏曲)は20世紀以降の作品だが、それらを聴くと、このプロジェクトが、ヨーロッパ音楽と民族音楽の両サイドから伝統を創造的に更新してきて、その結果、遭遇し、新たな地平を切り拓いたのだということがよくわかる。

チェロの加わらない民族楽器だけの演奏(シェミラーニ兄弟の即興演奏やリラが加わるトリオ)では、指や掌、手首などを鮮やかに駆使して楽器の各部位から叩き(あるいは擦り)出す精緻なリズムの妙技や、小型ながら意外に響きが豊かでニュアンスに富むリラとの生命力にあふれたセッションを満喫できる。まさにラディカル(根源的にして革新的)でクリエイティブと言うべきセッションである。

このプロジェクトの核心でもある四重奏曲、その大半は、いわば新しい現代の民族音楽とも呼べる作品だが、4つの楽器の共存に違和感

はまったくない(どの作品も作曲当初からチェロが指定されていたかどうかは不明。このユニット用に編曲された曲もあるのではないか)。頻繁に現れる変拍子のリズムに乗って、チェロがリラを低音域で支えたり、また、2つの弦楽器が歌い交わしたりすると、即興性の濃い4人のセッションから得る言われぬ独特な、深い情趣が醸し出される。

そうしてあらためてケラスの独奏を聴くと、ルトスワフスキ：《ザッハー変奏曲》の微分音を用いた現代的な書法から聴こえてくる自在さと、このユニットの即興的・自発的な自在さには通底するものを感じられるし、コダーイ：チェロ・ソナタ(第2楽章)には、昇華されてもなお、作品の底から突き上げてくるような強靱な民族性を感じずにはいられない。

AOIが委嘱し世界初演されたフィリップ・シェーレル(1957ーフランスの作曲家)の《Dance for Hermès》(四重奏曲)も大いに愉しめた。3拍子、4拍子と2つの変拍子(5拍子、7拍子)による4つのダンスからなり、拍子(リズム)の流動的な変化とともに歌(旋律)も変わっていく。奏者たちの卓越した能力を生かし、自発的に即興の愉しさを引き出すような仕掛けで構築されたこの作品が、このプロジェクトの新たな収穫、ヨーロッパとアジアをつなぐ新しい橋のひとつとなったことは間違いないであろう。

委嘱新作を加えたAOIならではの優れた企画にも(福田進一を加えたカニサレス公演にも)拍手を贈りたい。



撮影：日置典光

去る8月4日(土)、今年も「AOIのオープン・デイ」を開催しました。

はじめてのAOI

AOIをより知ってもらうための館内ツアー。大変人気で、今年度も2回実施しました。普段は見ることのできないAOIの裏側を、スタッフの案内でご覧いただきました。事前申込制で、各回25名のところ100名を超す応募がありました。

パイプオルガン、やってるよ！

AOIのパイプオルガンをお聴きいただくミニ・コンサート。30分のプログラムを2つ用意し、それぞれ2回ずつ実施しました。

ロビー・コンサート

常葉大学短期大学部音楽科の学生のみなさんによるアンサンブルをお聴きいただきました。今年度は異なる編成、選曲による3つのプログラムをご用意しました。



リハーサルをのぞいちゃお

「モーツァルト 名曲のタペ」のリハーサルの様子を親子室から見学していただきました。リハーサルをのぞいてからコンサートをお聴きいただいた方々は、コンサートをより楽しめたのではないのでしょうか。

ワクワク！

いろんな楽器にふれてみよう！

ヴァイオリン、フルート、クラリネット、トランペット、サクソフォーン、ピアノ、電子オルガン、ドラムなどの楽器に実際に触れていただきました。どの楽器も大変人気で、長蛇の列でした。



あなたの楽器の無料診察室

管楽器を対象にした簡単なメンテナンスサービスを実施しました。



ショップ・コーナー

CDのほかには楽器、グッズなどが並びました。

モーツァルト 名曲のタペ

「静岡の名手たち」アンサンブルが、当館芸術監督野平一郎の指揮で
W.A.モーツァルト：ディヴェルティメント へ長調 K.137 (125b)
ヴァイオリン協奏曲第5番(トルコ風) イ長調 K.219
交響曲第36番(リンツ) ハ長調 K.425

の3曲を演奏しました。ヴァイオリン独奏は「静岡の名手たち」合格者で、このアンサンブルのコンサートマスター、嶋田慶子がつとめました。事前申込制で、定員600名のところ800名以上の応募がありました。



撮影：日置典光

音と音楽のミニ・サイエンスショー

静岡科学館へくるのエデュケータにより、ミニ・サイエンスショーを実施。10分程度のショーを繰り返し行いました。



クイズに答えて、AOIのプレゼントをゲットしよう！

お子さんを対象に音楽にまつわるクイズを3問出題。全問正解の方にはプレゼントを差し上げました。

2019年度もさまざまなコンサートでみなさまをお待ちしています。どうぞご期待ください。

CONCERT SERIES 2019-20

第1期

ティファ
麗しの歌姫
森麻季 ソプラノ・リサイタル

5/30 [木] 19:00 開演 (18:30 開場)
全指定¥5,000 [Pコード=125-682] (会員¥4,500、22歳以下¥1,000)

出演
森麻季(ソプラノ)、山岸茂人(ピアノ)

曲目
F.メンデルスゾーン：歌の翼に op.34-2
R.シューマン：献呈 op.25-1 (《ミルテの花》より)
F.シュベルト：アヴェ・マリア op.52-6、D.539
P.マスカーニ：アヴェ・マリア
W.A.モーツァルト：歌劇《コン・ファン・トゥツェ》K.588 より
《恋人よ、許してください》
歌劇《ドン・ジョヴァンニ》K.527 より
《むごい女ですって!》

R.アーン：クロリスに
至福のとき
G.フォーレ：月の光 op.46-2
夢のあとに op.7-1 ほか



© Yui Hori

親子で楽しむ

子どものためのコンサート はじめての「雅楽」

6/22 [土]

全指定¥2,500 [Pコード=125-683]
(会員¥2,250、22歳以下¥1,000)
親子券¥3,000

15:00 開演 (14:30 開場)

曲目
管絃 平調音取
越天楽

楽器紹介
唱歌体験

舞楽 胡飲酒破

東野珠実：雅楽童話《ききみずきん》～管絃と語りのための

小学生のための「雅楽」ワークショップ

4/20 (土) 1回目 13:30～14:30 応募方法：静岡音楽館AOI公式ホームページ「雅楽」ワークショップ申込ページ
2回目 15:00～16:00 www.aoi.shizuoka-city.jp/gagaku/より
(この申込ページは1月16日(水)よりオープンします。)

講師：佐楽舎

会場：静岡音楽館AOI 講堂 (7階)

対象：小学1年生から6年生まで (2019年4月現在)

人数：各回30名 (無料・要申込・多数抽選)

※このコンサートは小学生を主な対象としています。

※3歳児からご入場いただけます。(チケットが必要です)

※演奏中、静かに鑑賞いただく必要があります。一旦ご退席くださいますようお願いいたします。

※受講希望者の氏名、学校名、学年、年齢 (2019年4月現在)、住所、電話番号、メールアドレス、ご希望の曲をご記入の上、ご応募ください。なお、いただいた情報は静岡音楽館AOIからのご案内以外には使用いたしません。

受付期間：2019年1月16日(水)～3月10日(日)
(3月31日(日)までにメールにて当落をお知らせいたします。)

ヴァイオリンの潮流Ⅳ 20世紀のヴァイオリン
アーヴィン・アルディツティ
無伴奏ヴァイオリン・リサイタル

7/7 [日] 15:00 開演 (14:30 開場)
全指定¥4,000 [Pコード=134-647]
(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演
アーヴィン・アルディツティ (ヴァイオリン)

曲目
B.バルトーク：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ Sz.117
L.ペリオ：セクエンソヴァⅢ
P.ブーレーズ：アンセムⅠ
S.シャリーノ：6つのカプリッチョ
B.ファニーホフ：インテルメディオ・アラ・チャツコーナ
見えない色彩



講演会 現代音楽の楽しみ方

7/7 (日) 13:00～14:30 お話：白石美雪 (音楽評論家) 静岡音楽館AOI 講堂 (7階) 無料 (要申込)

オーケストラを聴こう
ベートーヴェン：交響曲全集Ⅰ

7/21 [日] 15:00 開演 (14:30 開場)
全指定¥6,000 [Pコード=125-690]
(会員¥5,400、22歳以下¥1,000)

出演
沼尻竜典 (指揮)
トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニー



© YUSUKE TAKAMURA

曲目
L.v. ベートーヴェン：交響曲第1番 ハ長調 op.21

第3番《英雄》変ホ長調 op.55

CONCERT SERIES 2019-20

第2期

2020しずおか文化プロジェクト
静岡市文化振興財団
第24回「静岡の名手たち」
オーディション合格者によるコンサート

9/14 [土] 18:00 開演 (17:30 開場)
全自由¥1,800 [Pコード=125-812] (会員¥1,620、22歳以下¥1,000)

出演
第24回「静岡の名手たち」オーディション合格者

静岡室内楽フェスティバル2019 2020しずおか文化プロジェクト
静岡市文化振興財団

川本嘉子 (ヴィオラ) & 小山実稚恵 (ピアノ)
デュオ・リサイタル

9/26 [木] 19:00 開演 (18:30 開場)
全指定¥4,000 [Pコード=125-814] (会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演
川本嘉子 (ヴィオラ)
小山実稚恵 (ピアノ)

曲目
J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第2番 ニ短調 BWV1008
L.v. ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第31番 変イ長調 op.110
J.ブラームス：11のコーラル前奏曲 op.122 より (野平多美 編)
ヴィオラ・ソナタ第1番 ヘ短調 op.120-1



© ND CHOW

アフリカ マリ、マダガスカル、モロッコの弦楽器による三重奏
3MA (スリー・エム・エー)
～コラ、ヴァリハ、ワードによるヴィルトウオーゾ・トリオ～

10/19 [土] 18:00 開演 (17:30 開場)
全指定¥4,000 [Pコード=125-816]
(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演
3MA

バラケ・シンコ (コラ/マリ)
ラジエリー (ヴァリハ/マダガスカル)
ドリス・エル・マルミ (ワード/モロッコ)

曲目
ANAROUZ
SAMEDI GLACE
ANFAZ
MOUSTIQUE ほか

講演会 アフリカ民族楽器の世界

10/19 (土) 16:00～17:30 お話：若林忠宏 (民族音楽研究・演奏家)
静岡音楽館AOI 講堂 (7階) 無料 (要申込)



© Cyrille Choupas

2020しずおか文化プロジェクト
静岡市文化振興財団

藤木大地&福田進一
デュオ・リサイタル ～歌とギターの調べ～

10/31 [木]

19:00 開演 (18:30 開場)
全指定¥4,000 [Pコード=125-820]
(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演
藤木大地 (カウOUNTERテナー)
福田進一 (ギター)

曲目
G.フレスコバルディ：アリアと変奏曲 (ギター・ソロ)
G.カッチーニ：アマリツリ
C.モンテヴェルディ：あの高慢な眼差しは (《音楽の讃詩》より)
V.ベッリーニ：フィッリデの悲しげな姿よ (《3つのアリエッタ》より) (A.セゴビア 編)
M.カステルヌオーヴォ・テデスコ：流浪のバラード
セゴビアの名によるトナディーリヤ op.170-5 (ギター・ソロ)
杉山洋一：《馬の飛行について》ーレオナルド・ダ・ヴィンチによるーカウOUNTERテナーのための
(2019年度静岡音楽館AOI委嘱作品・世界初演)
武満徹：《ノンクス》より《○と△の歌》《昨日のしみ》《翼》
波の盆 (鈴木大介 編) (ギター・ソロ)
加藤昌則：旅のこころ
木馬



© hiromasa



© Takanori Ishii

静岡室内楽フェスティバル2019 2020しずおか文化プロジェクト
静岡市文化振興財団

第3期

AOI・レジデンス・クワルテット

11/9 [土] 18:00 開演 (17:30 開場)
全指定¥3,500 [Pコード=125-848]
(会員¥3,150、22歳以下¥1,000)

出演
AOI・レジデンス・クワルテット

松原勝也 (ヴァイオリン)
小林美恵 (ヴァイオリン)
川本嘉子 (ヴィオラ)
河野文昭 (チェロ)



撮影：日置真光

曲目
L.v. ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第5番 イ長調 op.18-5
A.シュニッケ：弦楽四重奏曲第3番
J.ブラームス：弦楽四重奏曲第2番 イ短調 op.51-2

講演会 ベートーヴェンの世界

11/9 (土) 16:00～17:30
講師：平野昭 (音楽評論家)
静岡音楽館AOI 講堂 (7階) 無料 (要申込)

講演会 “この1曲”をとことん語る

10/4 (金) L.v. ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第5番 イ長調 op.18-5 講師：関本淑乃 (静岡音楽館AOI 学芸員)
10/11 (金) J.ブラームス：弦楽四重奏曲第2番 イ短調 op.51-2 講師：竹内啓 (静岡音楽館AOI 学芸員)
10/18 (金) A.シュニッケ：弦楽四重奏曲第3番 講師：小林旬 (静岡音楽館AOI 学芸員)

※いずれも19:00～20:30 静岡音楽館AOI 講堂 (7階) 無料 (要申込)

静岡室内楽フェスティバル2019 2020しずおか文化プロジェクト
静岡市文化振興財団

第9回
アマチュア・アンサンブルの日

11/23 [土・祝]

12:00 開演 (11:30 開場) ※20:00 終演予定

無料 (申込不要)

※ただし定員によりご入場をお断りする場合があります。

※未就学児もご入場いただけます (託児サービスはありません)。

アレクサンドル・タロー
ピアノ・リサイタル

11/30 [土]

18:00 開演 (17:30 開場)
全指定¥4,000 [Pコード=125-851]
(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演
アレクサンドル・タロー (ピアノ)

曲目
C.ドビュッシー：《映像》第1集 より《ラモーを讃えて》
J.N.P.ロワイエ：クラヴサン曲集第1巻 より《愛想をふりまく人》《スキタイ人の行進》
J-Ph.ラモー：新クラヴサン組曲集 より
《アルマンド》《サラバンド》《小さなファンファリネット》
《ガヴォットと6つのドゥーブル》
C.ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲 (A.タロー 編)
L.v. ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 op.111



© Marco Borggreve

【後援】(一社)全日本ピアノ指導者協会

クリスマス★コンサート
大西順子トリオ

クリスマス・ジャズ・ライブ

12/19 [木]

19:00 開演 (18:30 開場)
全指定¥5,000 [Pコード=125-852]
(会員¥4,500、22歳以下¥1,000)

出演
大西順子トリオ

大西順子 (ピアノ)
井上陽介 (ベース)
高橋信之介 (ドラムス)



CONCERT SERIES 2019-20

第3期

新春 ZEN-YAMATO
ジョイント・コンサート ～尺八&箏曲～

1/11 [土] 15:00 開演 (14:30 開場)
全指定¥3,500 [Pコード=125-854] (会員¥3,150、22歳以下¥1,000)

出演
善養寺恵介 (尺八)、山登松和 (箏、三絃)
岡村慎太郎 (三絃)、田中奈央一 (箏)、上原真佐輝 (箏、三絃)

曲目
吉沢検校：千鳥曲 (箏、尺八)
尺八古典本曲 善大寺 伝 虚空 (尺八)
山田検校：奥組 初音曲 (箏)
北沢勾当：ざらし (箏、三絃、尺八)
菊岡検校：笹の露 (箏、三絃、尺八)
三ツ橋勾当：根曳の松 (箏、三絃、尺八)



ランチタイム・コンサート
N響メンバーによる金管五重奏

1/23 [木]

11:30 開演 (11:00 開場) ※12:30 終演予定

全指定¥1,800 [Pコード=125-856]
(会員¥1,620、22歳以下¥1,000)

出演
福川伸陽 (ホルン)
長谷川智之 (トランペット)
安藤友樹 (トランペット)
古賀光 (トロンボーン)
池田幸広 (チューバ)

曲目
J.S.バッハ：小フーガト短調 BWV578
L.バーンスタイン：《ウェスト・サイド・ストーリー》より ほか



オーケストラを聴こう

ベートーヴェン：交響曲全集Ⅱ

2/2 [日] 15:00 開演 (14:30 開場)
全指定¥6,000 [Pコード=125-859] (会員¥5,400、22歳以下¥1,000)

出演
沼尻竜典 (指揮)
新日本フィルハーモニー交響楽団

曲目
L.v. ベートーヴェン：劇音楽《エグモント》op.84 序曲
交響曲第2番 ニ長調 op.36
第6番《田園》ヘ長調 op.68



© K.Miura

大阪国際室内楽コンクールの覇者

ザイル・サクソフォン・カルテット

2/22 [土] 18:00 開演 (17:30 開場)
全指定¥4,000 [Pコード=125-863] (会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

出演
ザイル・サクソフォン・カルテット

ギョーレ・ベルリニー (ソプラノ・サクソフォン)
サンドロ・コンパニオン (アルト・サクソフォン)
フロラン・ルーマン (テノール・サクソフォン)
ヨアキム・シエスラ (バリトン・サクソフォン)

曲目
A.ピアノラ：ヴィオレン・タンゴ
G.ビエルネ：民謡風ロンドの主題による序奏と変奏
野平一郎：サクソフォン四重奏曲
P.イトゥラルデ：小さなチャルダシュ
T.エスケシュ：タンゴ・ヴィルトウオーゾ
L.バーンスタイン：《ウェスト・サイド・ストーリー》メドレー
A.グラスノフ：サクソフォン四重奏曲 変ホ長調 op.109 より 第3楽章
A.シエスラ：ラブソディッシュ

